博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

1．博物館・美術館等保存担当学芸員研修

日程：2017(平成29)年7月10日(月)～21日(金)

参加者数：31名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984(昭和59)年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は約800名を数え、各地で資料保存の重責を担っている。 平成29年度は、34回目となる本研修を2週間実施した。

7月10日(月)
佐野千絵「文化財保存 概論」
早川泰弘「文化財の材質・構造」
宇田川滋正(文化庁)「文化財公開施設の設計」
7月11日(火)
吉田直人「保存環境 各論ー温湿度ー」
佐藤嘉則「生物被害 概論」
吉田直人「保存環境 各論ー空気環境ー」
7月12日(水)
小峰幸夫「生物被害 各論ー虫ー」
佐藤嘉則「生物被害 各論ーカビー」
小峰幸夫「生物被害　各論ー殺虫・殺菌処置ー」
犬塚将英「文化財の科学調査」
佐藤嘉則・小峰幸夫「生物対策実習」
7月13日(木)
北河大次郎「劣化と保存 各論ー近代文化財ー」
呂俊民、古田嶋智子、吉田直人「空気環境の改善」
朽津信明「屋外資料の保存環境」
森井順之「文化財施設の防災」
7月14日(金)
吉田直人「保存環境　各論ー光と照明ー」
ケーススタディ　テーマ打ち合わせ
7月18日(火)
山口孝子(東京都写真美術館)「劣化と保存　各論ー写真ー」
早川典子「劣化と保存　各論ー修復材料ー」
坂本雅美(紙本保存修復家)「劣化と保存 各論ー紙資料ー」
7月19日(水)
「環境調査実習ーケーススタディ」(於：埼玉県立歴史と民俗の博物館)
7月20日(木)
山本記子(国宝修理装潢師連盟)「劣化と保存 各論ー日本画ー」
ケーススタディ発表

7月21日（金）
木島隆康（東京藝術大学）「劣化と保存 各論ー油彩画ー」
吉田直人「東文研が行う環境調査・助言」

2．保存担当学芸員フォローアップ研修 ー展示・収蔵空間における空気環境の改善ー

1984（昭和59）年に始められた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」受講者はそれぞれの施設で、また、地域の中核的存在として資料保存の重責を担っている。しかし、保存に関する知識や技術は日々新しくなる。本研修は、資料保存に必要な最新の知識を持てるように行うものである。

平成29年度の本研修では、収蔵庫や展示室、また展示ケースの高気密化に伴う問題となっている、建材や内装材より発生し、資料への影響が懸念されるガスによる空気汚染の原因と対策をテーマとした。また、津波による水損を受け、安定化処置を受けた資料からの臭気の問題についても取り上げた。

日　程：2017（平成29）年6月19日（月）13：30〜17：15
参加者：103名
プログラム：吉田直人「環境調査結果からみえる空気環境に関する最近の問題」
古田嶋智子（日本学術振興会特別研究員・客員研究員）「汚染化学物質の発生源と空間への放散」
呂俊民（客員研究員）「空気環境の把握と改善のためのマニュアル作成」
内田優花（国立文化財機構文化財防災ネットワーク・アソシエイトフェロー）、佐野千絵
「水損資料から発生する臭気と原因物質」

（講師の所属に記載のない場合は東京文化財研究所）

文化財情報資料部　2－(5)－②－1）

文化財の評価・活用に関する助言（シ09）

平成29年度は以下の組織等において指導助言を行った（19件）。

・永青文庫美術館夏季展「細川護立と近代の画家たち」開催に関する協力・助言
・福井県立美術館開館40周年特別展「狩野芳崖と四天王」開催に関する協力・助言
・近江八幡市市史編纂室による文化財調査に関する協力・助言
・南蛮文化館の所蔵品修復に関わる協力・助言
・韓国・Lee & Won財団への協力・助言
・イタリア・ヴァチカン博物館収蔵庫新設等に関わる協力・助言
・浦添市美術館における漆工芸品研究に関する協力・助言
・明治大学における漆工芸品研究に関する協力・助言
・甲賀市教育委員会の文化財指定に関わる協力・助言
・逸翁美術館の所蔵品調査に関する協力・助言
・土佐・絵金蔵の所蔵品調査に関する協力・助言
・岡山県立美術館の所蔵品調査・展示に関する協力・助言
・野崎家塩業歴史館の所蔵品調査に関する協力・助言
・八尾市教育委員会管轄の文化財調査に関する助言・協力
・大和文華館の所蔵品調査に関する協力・助言
・和歌山県立博物館の所蔵品調査に関する協力・助言
・和歌山市立博物館の所蔵品調査に関する協力・助言
・山口・五橋文庫の尾形乾山に関する問い合わせへの助言
・群馬・大川美術館の展覧会にかかわる協力・助言

無形文化遺産に関する助言(ム)

無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。

・文化庁への助言（民俗技術に関する調査 3/6-8 鹿児島県、文化財保存技術に関する調査 4/20・6/12・7/18・24・25・26・8/17-19・9/13-14・19・10/23-25・2/2・3/1 文化庁・東京都・埼玉県・愛知県・滋賀県・京都府・広島県、国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員会 1/30 文化庁、伝統音楽普及促進支援事業審査 3/14 文化庁、無形文化遺産に関する会議 5/29・6/26・28・8/21・9/14・19・20・10/12・17・11/17・12/21・2/7 文化庁）
・茨城県への助言（11/6 常陽藝文センター）
・神奈川県への助言（7/6・9/21・1/30 神奈川県庁）
・東京都武蔵野市への助言（武蔵野市文化財保護委員会 4/11・9/5・12/12 武蔵野公会堂・武蔵野ふるさと歴史館）
・神奈川県箱根町への助言（5/5・23・14-16・9/26・12/7・3/1・26・27 箱根町）
・岐阜県岐阜市への助言（長良・小瀬鵜飼習俗総合調査合同委員会 11/1 岐阜市役所）
・福井県おおい町への助言（11/29-12/1）
・独立行政法人日本芸術文化振興会への助言（国立劇場文楽専門委員会 6/7・3/14 国立劇場、国立劇場文楽賞選考会議 3/7 国立文楽劇場、民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員会 6/8・24・7/4・1/27・3/26 国立劇場）
・公益財団法人東京都歴史文化財団への助言（第49回東京都民俗芸能大会 3/17・18　東京芸術劇場）
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言（5/13）
・一般財団法人日本青年館への助言（第66回全国民俗芸能大会企画委員会 4/17・8/30・11/24・25・1/22 日本青年館）

文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

目　　的　　これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

成　　果　　主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、公文書館、社寺等、修復工房等であった。平成29年度の対応件数は、合計で42件あり、内16件については派遣依頼等を受けて現地にて調査をしたもの、あるいは研究所にて詳細な培養試験等を実施したものなど、より緊急度、危険度が高い事案であった。

虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における文化財害虫の発生、カビの発生などが主なものであったが、屋外の装飾古墳の石材面に発生した微生物の対処なども含まれた。被害の規模も文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多様であった。生物被害の原因としては、施設の老朽化や空調の不備等に起因するカビ発生が最も多く、それに次いで殺虫殺菌薬剤の使用方法や作品の貸し借りの間で害虫が見つかる事例などの相談も複数件受けた。施設の老朽化や空調の不備等については最終的に収蔵施設の建て替えといった抜本的な対策が解決になるのだが、建て替えまでの期間どのようにして収蔵品を保存していくかという対策については課題が残った。

また、文化財IPMの考え方を取り入れた館のいくつかで従来の燻蒸処理よりも保存担当者の害虫モニタリング等の作業負担が増えてしまう問題も見受けられた。文化財IPMを実践するには、

多くの人手が必要なため、館の職員全員が文化財IPMに関わるような意識改革が必要であり、それを啓発するような教育が必要であると感じた。また、相談案件の中には、基礎的な知識や対策があれば未然に防ぐことが出来たであろう事例も多く含まれていたことから、文化財の生物被害対策に関する基礎的な知識の習得を目指してポスター制作を行った。今後も文化財の虫菌害に関する調査・助言等と並んで生物被害に対する教育普及・啓発活動を強化する必要がある。

研究組織　○佐藤嘉則、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター　　2－(5)－②－1）

文化財の修復及び整備に関する調査・助言（ホ）

目　　的　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成　　果　1．平成29年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）、国宝平等院鳳凰堂、国宝東寺五重塔、史跡万田坑跡、史跡端島炭鉱跡、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡石人山古墳、史跡桜京古墳、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡清戸迫横穴、史跡吉見百穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡韮山反射炉、史跡萩反射炉、史跡東京湾要塞跡、史跡原爆ドーム、史跡東京湾要塞跡、重要文化財常願寺川砂防施設、重要文化財菅尾磨崖仏、重要文化財東慶寺文書重要文化財末広橋梁、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財岩水寺所蔵木造地蔵菩薩像内経、重要文化財伏見稲荷大社御茶室障壁画、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、重要文化財近代教科書関係資料、名勝錦帯橋、興福寺油汚損文化財、熊本県内被災古墳、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財琉球芸術調査写真、重要文化財埼玉県行政文書。

2．地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

臼杵市内キリシタン遺跡、堅田図旧襖絵屏風、日本航空協会所蔵「飛燕」、関市若栗橋、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、三原市磨崖和霊石地蔵、東京国立近代美術館所蔵近代絵画、富山市大山恐竜足跡化石群、大阪新美術館準備室所蔵関根正二作品、東京国立博物館所蔵南蛮屏風図、福岡市名島橋、徳島市坂東俘虜収容所、南九州市知覧特攻平和会館所蔵紙資料。

東日本大震災で一度倒壊した後、再建された史跡・薬師堂石仏の覆屋

研究組織　○朽津信明、北河大次郎、早川典子、森井順之、佐野千絵、倉島玲央（以上、保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

文化財の材質・構造に関する調査・助言（ホ）

目　　的　様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成　　果　蛍光X線分析、X線回折分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

〇材質調査
・漆工品（文化庁、2017（平成29）年4月）
・染織品（文化庁、2017（平成29）年4月）
・障壁画（二条城、2017（平成29）年5月）
・金工品（名古屋城、2017（平成29）年6月）
・銅造物（大山寺、2017（平成29）年8月）
・壁画模写（東京藝術大学、2017（平成29）年10月）
・漆工品（東京国立近代美術館、2017（平成29）年10月）
・工芸品（文化庁、2018（平成30）年2月）
・歴史資料（文化庁、2018（平成30）年2月）
・工芸品（文化庁、2018（平成30）年2月）
・絵画（文化庁、2018（平成30）年2月）
・木彫像胸飾（文化庁、2018（平成30）年3月）

〇構造調査
・絵画（國學院大學、2017（平成29）年7月）
・出土遺物（明治大学、2017（平成29）年8月）

以上、調査・助言件数　14件

研究組織　○犬塚将英、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（ホ）

国指定品の収蔵、展示を予定する30館を対象とした環境調査を行い、計31通の報告書を作成した。

熊本県立美術館、高岡市美術館、松江歴史館、高松市美術館、練馬区立石神井公園ふるさと文化館、岐阜県博物館、川越市立博物館、佐野市郷土博物館、中之島香雪美術館、豊岡市立歴史博物館、新潟市新津美術館、秋田県立近代美術館、安城市歴史博物館、MIHO MUSEUM、泉屋博古館分館、佐賀県立名護屋城博物館、三重県立美術館、八幡市立松花堂庭園美術館、中山道みたけ館、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団、高知県立歴史民俗資料館、四日市市立博物館、兵庫陶芸美術館、米子市美術館、府中市美術館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、香雪美術館、金沢市立中村記念美術館、安芸高田市歴史民俗博物館

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財　収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築な

どの相談に対して助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。
保存環境に関する相談件数　521件

研究組織　○吉田直人、石井恭子、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター　　2－(5)－④－1）

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進（ホ）

目　　的　連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

成　　果　1．今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限）　2単位　佐野千絵・吉田直人・佐藤嘉則　21名
修復計画論　　（前期、木曜1限）　2単位　朽津信明・早川泰弘　8名
修復材料学特論（前期、木曜2限）　2単位　早川泰弘・早川典子　7名
保存環境学特論（後期、火曜1限）　2単位　吉田直人・佐藤嘉則　7名
文化財保存学演習
テーマ「水損文化財の生物被害軽減のための初期対応」、講師：佐藤嘉則、受講者21名
日時：2017（平成29）年6月6日（火）13：00～17：00

2．修士学生指導
英語論文輪講（前期、水曜3限）　2単位　佐野千絵・早川典子　システム保存学修士2年生対象
修士論文指導　随時　システム保存学修士2年生対象
池田芳妃　「ポリウレタンフォームとシリコーンゴムを用いた作品の調査と保存の検討
―1980年代に制作されたマネキンについて―」

3．入学試験
平成30年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程（前期・後期）　入学試験は実施せず。

4．成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力
教室会議参加（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士審査会への協力

講義風景

研究組織　○佐野千絵、早川泰弘、朽津信明、吉田直人、早川典子、佐藤嘉則（以上、保存科学研究センター）